

[41] radix : 九州大学全学共通教育広報

<https://hdl.handle.net/2324/20406>

出版情報 : radix. 41, 2005-03-31. 九州大学教養部大学教育研究センター
バージョン :
権利関係 :



Radix

2005.04.07 vol.41
九州大学全学教育広報

お世話になることが多い本館 1 階

六本松地区で修学する間は、六本松地区で事務手続きを行います。各種手続きや相談など、日常的にも困ったときにも本館 1 階にお世話になる機会が多いはず。この手続き・相談はどこですればいいのかな？ということを感じるときのために把握しておきましょう。

詳しい内容は、「学生案内」「全学教育科目履修要項」「全学教育科目履修の手引き」など、入学と同時に大量に渡された冊子の山の中から、これらの特に重要な冊子を掘り出して、確かめてください。

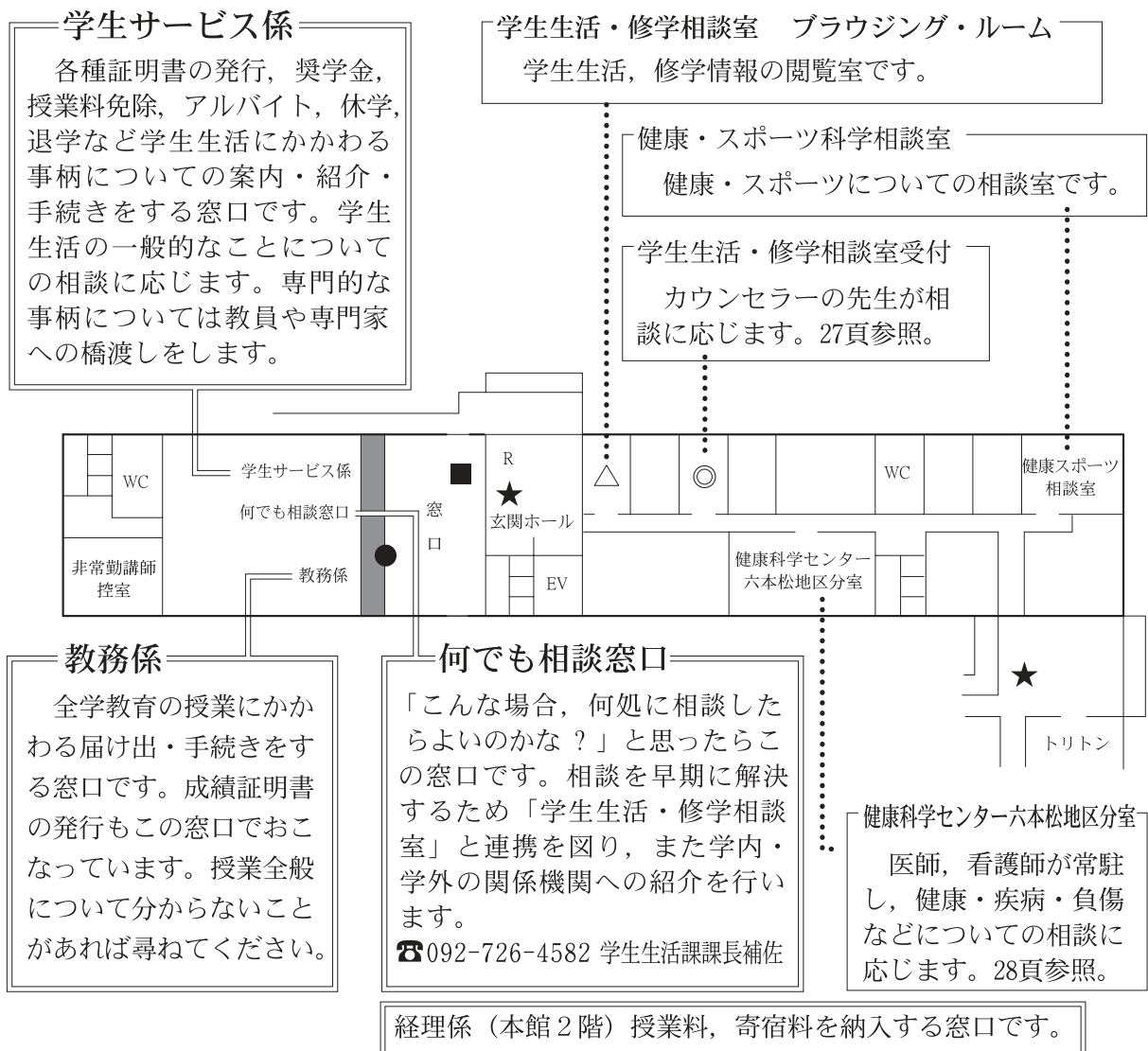
なお、各種窓口の受付時間

教務係，学生サービス係 ——— 8：30～17：15

課外活動係 ————— 8：30～17：15

経 理 係 ————— 9：00～17：00

本館 1 階見取り図



...電子掲示板(六本松情報) ...意見・要望ボックス R...radix スタンド ...在学証明・学割自動発行機

“九大を使いこなそう”は川口匡子(21世紀プログラム卒業生)とその仲間達が担当した03年度版を編集委員会が改訂

2頁の地図を見れば、すぐ気付くかと思いますが、六本松地区の多くの教室の呼称には約束事があります。本館にある教室以外は、3桁の呼び名で呼ばれていますが、1番目の数字が教室の存在する建物、2番目の数字が階を表します。この2桁が解読できれば基本的には迷わないはず！ ちなみに、Nは新1号館の略です。

例えば 112番教室なら「1」号館、「1」階、「2」番目の教室です。

*ただし、特1番教室、特2番教室、ゼミ1～7番教室、実験室、製図室は例外です。

② 情報のキャッチ&発信

公用掲示板 ()

2ページの地図上で で示してある掲示板です。

授業、試験、奨学金、留学、課外活動など、学生生活にかかわる詳しい情報が掲示されます。学科や教員からの情報、呼び出しなども掲示されます。

注意！ 掲示板をチェックしないと……

受講するクラス：授業は全て自由に取れるというわけではなく、クラス指定やクラス振り分け、受講登録があります。

教科書・教室：教科書以外に、器具や指定レポート用紙が必要な場合があります。

掲示板の情報を見落とすと、授業にスムーズに参加できないかもしれません。

掲示板のチェックは、1日1回を基本にしてください。

電子掲示板 (六本松情報 箱崎・病院・大橋地区情報)

同じく で示してある掲示板です。休講、補講、教室変更など授業に関する一般情報、事務からの呼び出しなどが掲示されます。毎日更新。

電子掲示板は、インターネットからも閲覧可です。アドレスは、

<http://hesvr.rche.kyushu-u.ac.jp/>



情報のチェックはこまめに!!

クラス掲示板

本館と1号館の渡り廊下に設置されています。

学生専用掲示板

学生厚生センター下の通路と、体育館前のグラウンド沿いに設置されています。

九州大学六本松地区ホームページアドレス

アドレス <http://www.rc.kyushu-u.ac.jp/>

「シラパス (授業計画)」の最新版がチェックできます。授業によっては、「クラス掲示板」が開設される場合があります。先生への質問、友達へのメッセージに利用できます。

サークルや、寮のリンクも充実しているので、一度は訪れてみてください。



シラパスや、事務連絡など覗くべき情報は盛りたくさん。「お気に入り」に登録しておきましょう!

radix (九州大学全学教育広報) (R)

全学教育に関する情報を掲載しています。学生・留学生・先輩の手記や、メッセージ、授業や留学に関わる記事など。常に多岐にわたる九大の使い方が得られるはず。本館玄関、新1号館1階のスタンドをマメにチェックしてみてください。

全学教育についての「意見・要望」BOX ()

六本松地区の授業、窓口、施設など勉学と生活に関することすべてのことについて、意見、要望、訴えがあれば、この「意見・要望」ボックスに投函してみてください。署名があれば必ず対応について返答します。教務係カウンターに設置してあります。

応用編～さらにこんな使い方が～

これまで初心者編で、九大の使い方の基本を説いてきましたが、さらに、授業料分は骨の髄まで利用してやる！という心意気があるならば、こんな使い方もできます。

サークルやコンパなどに

九大では、無料でサークルの練習場所、合宿所やコンパの会場が調達できます。

これらの施設は、事前に申し込んで使用許可を取ることによって利用できます。

九大生の特権ですので、大いに利用いたしましょう！

普通教室のグループ利用

特別（グループ）利用申し込みは、10日前から前日の午前中までです。

学生会館のグループ利用

特別（グループ）利用申し込みは、4週間前から前日の午前中までです。

亭々舎

クラス、グループの読書会や懇談会場として利用できます。

申し込みは利用日の1ヶ月前から3日前までです。

体育館、グラウンド、テニスコート

これらの施設を自由に利用できる時間帯があり、道具の貸出も行っています。

学外の研修施設

九大生であれば、学外にある格安の合宿施設も利用することができます。

九大山の家（大分県玖珠郡九重町筋湯）

九州大学の学生・教職員のゼミや合宿、登山の基地としてどうぞ。

九重共同研修所（九大山の家の横）

九州地区の国立大学の学生・教職員の研修施設です。山の家に宿泊した際に併せて利用できます。

島原共同研修センター（島原市郊外）

九重研修所と同様九州大学の学生・教職員のゼミや合宿に利用できます。

自由に使える場所

大学生は高校と違い、ホームルームが無い流浪の民です。そんな大学生が空き時間や、休み時間を過ごすための自由に使える場所をご紹介します。

図書館

学生証が入館証を兼ねています。入館の際には、入館ゲートにバーコードを認識させてください。

図書館の本を無断で持ち出すと、万引き防止装置(?)が警報を発するので、注意してください。

開館時間：月曜～金曜 授業期間 9:00～20:00

試験期間 9:00～22:00

夏休み等 9:00～17:00

土曜・日曜・祝日 10:00～17:00

休館日：8月中旬の3日間、年末年始等

*詳しくは開館スケジュール（図書館で配布もしくはホームページ）をチェックしてください。

図書館のホームページ：<http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/libinf/ropponmatsu/>



自習室も充実！これで集中して勉強できることでしょう！！

LL教室

LL教室は外国語のLL学習を行う教室として1号館に設置されています。

授業の行われていない時間はLLの自習室として皆さんに開放しています。

LL教室及び併設のLL準備室には、皆さんが自習をするのに役に立つ機材や教材を豊富に取り揃えていますし、特に第1LL教室では設置してあるコンピュータで最新のインターネット教材での自習が可能です。

(全学的に導入されている英語教材のネットアカデミーも利用できます。)

語学のスキルアップを目指す方はもちろん、外国語に興味のある人、教養を高めたい方はどうぞ気軽にLL教室へおいでください。

LL教室

場所：1号館東側(120, 121, 122番教室)

開室：平日8:30 - 17:00

(試験中などに臨時閉室あり)

利用できる教材：コンピュータ教材

- ・アルク ネットアカデミー (英語; listening, reading, 理工系 writing)
 - ・Aularog TeLLMeMore(独・仏・スペイン語) DVD, ビデオ教材 多数
 - CD, カセット教材 多数 ほか
- (メディア教育開発センターのリスニングソフトが大量にあります)

また、手持ちの教材も利用できます。

問い合わせ先：LL準備室 726 - 4703 (内線4703),

E-mail:call@flc.kyushu-u.ac.jp

学生会館(食堂, 談話室), 軽食堂, トリトン食堂は、営業の終了時間まで。

学生会館内にある談話室のうち、第1および第3談話室は16時まで、第2談話室は21時まで自由に利用できます。

情報教育(パソコン)教室

平日は、講義に使用されていない時間帯は20時30分まで利用できます。休暇期間中も一部期間を除いて開いています。



施設の利用申し込み手続きは、この表を参考に！

種 別	手続先係名等	必要書類・手続期間等	注 意 事 項 等
教室使用願		使用日の10日前～前日の午前中	
亭々舎使用願		使用日の1ヵ月前～3日前	
学生会館使用願	課外活動 共用施設窓口	学内者のみの使用 学生証 4週間前～前日の午前中 学外者を含む使用 学生証 4週間前～1週間前	
体育施設一般使用	体 育 館 窓 口	一般使用の時間帯は窓口に掲示	土曜日の体育施設使用は課外活動 共用施設窓口で要予約
運動用具短期貸出し		学生証と引き換え(土曜日を除く)	体育館等での一時使用
登山用具貸出し		学生証	1ヵ月前から予約可
九重山の家利用願	課 外 活 動 共用施設窓口	利用日の2ヵ月前～15日前	1年前から予約可
九重共同研修所予約 同上利用申し込み		1年前～2ヵ月前 2ヵ月前～15日前(要予約)	5人以上の団体であること。
島原共同研修センター 予約・申し込み			
松原寮・貝塚寮 入寮申し込み	箱崎地区 学務部学生生活課	7月, 翌年2月	申請書類の交付は六本松地区学生 サービス係でも行います。

六本松地区事務窓口案内

六本松地区で修学する1年半（医・歯・薬・芸術工学部は1年）の間、皆さんは六本松地区にある全学教育事務室で事務手続きを行います。詳しい内容は、配付済みの「学生案内」「全学教育科目履修要項」「全学教育科目履修の手引き」などで確かめてください。下の事務手続き一覧を参照にするほか、分からないところは各係の窓口で尋ねてください。

各係の窓口受付時間 教務係、学生サービス係 — 8:30～17:15
 課外活動係 ————— 8:30～17:15
 経 理 係 ————— 9:00～17:00

事 務 手 続 一 覧

種 別	手続先係名等	必要書類・手続期間等	注 意 事 項 等
聴 講 届 提 出	各授業担当教員	各学期授業開始第1週目	本年度前期は4月11日～4月15日 本年度後期は10月3日～10月7日 受講制限をすることがあります。
履 修 ・ 受 験 届 提 出	教 務 係	各学期授業開始第2週目	本年度前期は4月18日～4月22日 本年度後期は10月11日～10月17日
履 修 ・ 受 験 届 確 認		5月上旬, 10月下旬	
追 試 験 願		出願理由を証明する書類 原則として当該試験から3日以内	病気の場合は医師の診断書, 忌引 の場合は葬儀のはがきなど。
成 績 証 明 書		学生証 3日後に交付 英文の場合は7日後に交付	
日 本 学 生 支 援 機 構 (旧 日 本 育 英 会) 奨 学 金 奨 学 生 募 集	学 生 サ ー ビ ス 係	4月中旬(1, 2年生)	インターネットを利用して手続き を行います。 詳しくは公用掲示板をご覧ください。
各 種 奨 学 金 募 集		4～5月頃に集中	地方自治体の奨学金はそれぞれの教育 委員会に問い合わせてください。
授 業 料 免 除 願 書 交 付		6月下旬(平成17年度後期分) 1月下旬(平成18年度前期分)	詳しくは公用掲示板をご覧ください。
学 生 教 育 研 究 災 害 保 険 の 加 入 受 付		4月, 10月	
ア ル バ イ ト の 登 録 ア ル バ イ ト の 紹 介		4月上旬 常時	窓口の紹介簿で各自選択。
通 学 証 明 書 在 学 証 明 書 学 生 証 再 交 付		学生証 即日交付 学生証 即日交付 学生証 即日交付 学生証再発行願 再発行願提出後1週間程度	学割証, 在学証明書については, 自動発行機により発行。 学生証を紛失, 汚損したら必ず再 交付を受けてください。
定 期 試 験 受 験 証 明		当該日ごとに交付	定期試験に学生証を忘れた場合。
現 住 所 変 更 届 保 籍 地 変 更 届 本 籍 地 変 更 届 改 姓 ・ 改 名 届			現住所など変更したら直ちに届け てください。
休 復 学 願 退 学 願		保証人が連署した願書 クラス指導教員の署名・押印 病気の場合は診断書添付、経済的理 由の場合は保証人の所得証明書添付	
海 外 渡 航 届		保証人承諾書, 旅行計画書	
自 動 車 入 構 許 可 証	学生証, 免許証, 車検証	特別な事情で自動車通学が必要と 認められる場合に限ります。	
盗 難 届		警察への届け出も必要です。	

手続きの期間は変更されることがあるので、**公用掲示板や電子掲示板**の掲示をよく見てください。

願, 届出, 申込等の手続用紙は、担当係の窓口を用意されているので、必要なときには申し出てください。

ケンブリッジ・ミュンヘンで外国語を学ぼう

九州大学では以下のような語学研修旅行があります。興味が湧いたらいざ説明会へ！

	研修先	期間	人数	研修内容	説明会その他
英語研修	ケンブリッジ大学 ペンブローックカレッジ	8月8日前後～9月2日前後の4週間弱（2006年）	30名程度	少人数クラスでの英語集中コース、英国文化の専門科目、晩餐会、オプションとして様々な行事、週末は自由。8ヶ月4回にわたる英語、英国文化、旅行方法等の事前講習を含む。	平成18年夏分の募集は4～11月。詳細は下記で確認のこと。 http://www.rc.kyushu-u.ac.jp/~yubun/index3pembroke.html
ドイツ語研修	ミュンヘン大学	2月下旬から4週間	他大学の学生も含めて60名程度	最初の2週間の午前中はミュンヘン大学での少人数集中授業、午後は街での実地研修。次の1週間は小都市と小さな村に分かれてホームステイ。最後の1週間は自由行動期間。	説明書は4月下旬から配付。説明会は5月中旬頃。夏休みの終わりに選抜試験があり、合格者には10月から合宿を含む毎月1回の講習会、月に2回程度の少人数勉強会等。

ケンブリッジ大学英語研修

毎年夏にケンブリッジ大学英語研修が実施されています。研修先のペンブローックカレッジは1347年創立、30以上ある同大のカレッジの中で3番目に古く、英国最年少の首相小ピット、詩人スペンサー、経済学のケインズ等で有名で、世界最高峰のケンブリッジの中でも定期試験で全カレッジ中トップになったことがあります。高貴なガーデンキャンパスの中で、歴史の重みを感じさせる建物が私たちを迎えてくれます。

研修はこのカレッジを基地にして実施され、キャンパス内にある正規の学生と同じ寮に宿泊します。授業は少人数能力別の英語集中訓練と、チューターによる解説セッションを含めた英国文化に関する本格的な講義科目があります（いずれも本研修専用）。教員はケンブリッジ大学の現職教員もしくは同大出身者です。

現地の学生さんが数名九大グループ専属の世話役になり、毎晩のようにオプションの行事（観劇、スポーツ、パブなど）を計画してくれます。その他正式な晩餐会に正装で臨むなど、最高の演出が楽しめます。

旅行業者や英語学校が運営するものに比べて料金は高いですが、ケンブリッジ大学自身が運営する英語研修プログラムは他に例を見ません。過去の参加者たちは、一生の友人を得て、上質の異文化に震えた、行ってみるまではわからない人生最高の経験と言っています。また、8ヶ月にわたり英語学習方法から週末の自由旅行を個人で手配する能力の開発に至るまで、学習連絡会やメールでみっちり指導することも、他のツア

ーにはない特長です。1年近くに及ぶ研修と見なしてよいでしょう。負担は大きいですが、その分満足感のある研修になります。現地を去るとき多くの参加者は泣いて別れを惜みます。

今夏分は選考済みです。来夏分は上記URLのHPを御覧下さい。4～11月に面接（早い方が若干有利）、11月末に合格発表、12月から事前講習に入ります。

能力別クラスですので、英語力の不足を恐れる必要はありません。あなたも、ケンブリッジという最高の舞台を体験し、九大での学生生活を輝かせませんか。

鈴木 右文（言語文化研究院）



芝生の前で修了書授与式
(ケンブリッジ大学英語研修)



私の目指した ケンブリッジ

文学部3年 ふる 古 かわ 川 ゆう 雄 き 基

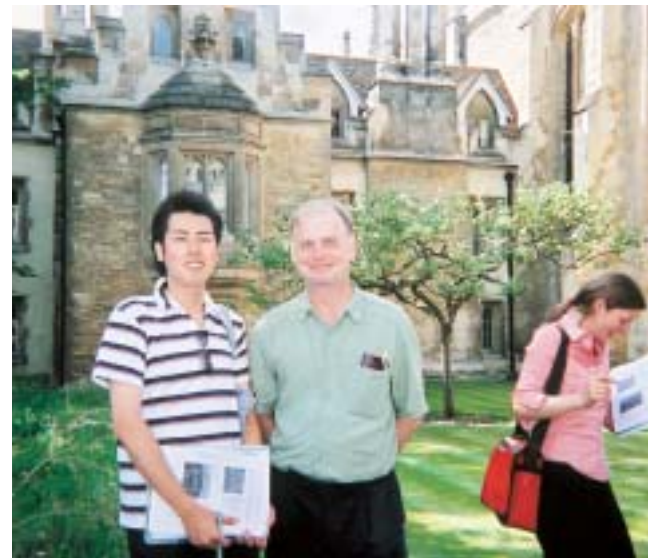
「あの世界的に有名なケンブリッジ大学に留学できるなんて、一生のうちで今しかないチャンスだ。」私がこの研修に参加した、当初の動機はその程度のものでした。もちろん、研修費用は貧乏学生に簡単に出来るような額ではなかったため、両親と祖父母に頭を下げて、私自身もアルバイト代を足しにしました。不思議なもので、研修に参加するという目標ができてからというもの、かえって大学の講義や英語の独学、日常生活の全てに一生懸命に取り組むことができ、瞬間に渡英の日を迎え、スーツケースとパスポートとを手に福岡空港に集合していました。

海の向こう、涼しい夏の中でのケンブリッジでの一ヶ月は、一日たりとも学ぶことのない日はありませんでした。まずは何より英語に囲まれた大学生活を送ることで、日を経るごとに実践的な英語力がついていきました。無論これには、長期にわたる九大での事前講習をはじめとした英語学習も奏効しています。

また、ケンブリッジ大学の授業は質が高いたくなく、容赦なく自主性や自分の意見を求められる刺激的なものでしたし、現地の学生は我々とほぼ同年代ながら、しっかりと目標を持った「大人」でした。晴れた

空の下で重厚なキャンパスに輪になって座り、彼らと互いの国の文化を学んできたこと、夢について語り合ったことは今でも忘れられません。さらに、学習面だけではなく、イギリスの様々な土地を訪れ、文化に直に触れたことは、単なる思い出に止まらない、生涯を通して自分という人格を形成する上での貴重な財産となったと確信します。今振り返ると、あの時自身の直感を信じてこの研修に申し込んだことで、金銭には代えられないかけがえのないものを手に入れることができたのだと思います。

是非、多くの皆さんにも私と同じ感動を味わって頂けたらと願ってやみません。



ニュートンのリンゴの木の前で先生と

手作り異文化体験をドイツ研修旅行で！

春休みの一ヶ月間、日本を飛び出してドイツでドイツ語を使って生活してみませんか。

この「ドイツ語とドイツ文化」研修旅行は今回で22回を数える、日本における外国語研修旅行の草分け的存在で、全国にも知れ渡ったものです。

この研修旅行は3本の柱から成り立っています。

まずはミュンヘン大学の「外国語としてのドイツ語科」における2週間のドイツ語研修。ここでは1クラス8名ほどの少人数グループに分かれ、ドイツ語の集中的な授業が行われます。午後からは街へ飛び出して通行人や商店の店員にインタビューをしに来る、といった課題も出されます。

次に、ミュンヘン郊外の小さな町アメラング、あ

るいはシュトゥットガルト近郊の小都市バーリンゲンで1週間のホームステイ。1名から3名に分かれて各家庭に滞在します。家族同様の暖かさで迎えてくれる、まさにドイツ版「ウルルン滞在記」です。ただの語学研修では得られない貴重な体験があなたを待っています。

最後に1週間の自由行動期間があります。この期間は個人行動が原則で、3週間のドイツ語修業の成果が試されます。各自の研修テーマを追ってドイツ各地、あるいはスイス、オーストリアを巡ります。

毎年の参加人員は他大学の学生も含めて60名程度です。説明会は毎年5月末ごろに開きます。また4月中旬からは「説明書」を学内で配布しています。

ただし、夏休みの最後ごろに「選抜試験」があり、これをクリアしないと参加資格が得られません。

世界・日本

「選抜試験」に通ってから月に1回の講習会や、月に2回程度の5名程度での小グループ勉強会があります。ドイツ語学習時間は、日本にいる時を含めてなんと3500分以上。いや、これは授業時間を足しただけで、ドイツにいる間は夢もドイツ語で見るようになるのだから(実際!)何年もドイツ語を学習するような効果は確実に得られます。

費用は約35万円プラスお小遣いくらいでしょうか。詳しくは、ドイツ語の福元教官、田畑教官あるいは津村まで。

津村正樹(言語文化研究院)



ホームステイ先の家族といっしょに
(ミュンヘン大学ドイツ語研修)



私の財産

文学部3年 わた なべ とも え
渡 邊 智 恵

私がこの研修旅行でドイツに行ってから、早いものでもう1年が経ちます。去年のクリスマスには、私が訪ねてきたドイツ人の友人から手紙とプレゼントが届きました。今思えばこのドイツ語の手紙を、研修旅行に参加した頃にはまだ随分苦労して読んでいました。そのことをとても懐かしく思いながら返事を書いていると、研修旅行の思い出がよみがえってきたのをよく覚えています。

一ヶ月間の研修旅行ではもちろんたくさんのことを学びましたが、私にとって半年間の準備期間も貴重なものだったと思います。有志の先生方による講習会や仲間内での勉強会などで、しっかりとドイツ語の学習に打ち込めたのは、とにかくありがたいことでした。私がドイツ語を本当に好きになったのは、この準備期間でのことです。ドイツではドイツ語を使うことが本当に楽しくなり、様々な人と交流することができました。今考えると、これが私にとって一番の収穫だったと言えます。

行く先々で実にたくさんの人たちと出会いました。Münchenでは空手をしているドイツ人の方々と出会い、私も一緒に練習することができました。日本から遠く離れたドイツで、全く同じ空手の型をドイツ人と練習している...と、とても感動を覚えたものです。実は、私は黒帯を取った後空手を続けるかどうか迷って

いたのですが、絶対に続けようと思ったのはこの時でした。他にも、以前から文通をしていたドイツ人の友人と初めて会ったこと、ユースホステルで同室だった外国人と語り合ったこと、ホームステイ先の家族と一緒に過ごしたこと...など、とてもここでは書ききれないくらいたくさんのお出会いと交流があったおかげで、この研修旅行は充実した楽しいものになりました。辛かったことを挙げるとすれば、その人たちとの別れ、それに尽きます。

もちろん大変だったこともあったのですが、それがすべて良い勉強だったと言えるのは、協力して下さった色々な方々と良い仲間達がいたからでしょう。食事をあまり取らなかった私のことをよく叱ってくれた仲間達が、先日集まった時にもまた、私の食生活が心配だ、どうしているだろうか、と話していたそうです。こんなに良い仲間達とドイツで学べたことを、またこの先ずっと一緒に語り合えることを考えると、やはりあの研修旅行は私の財産だと思います。



ホストファミリーと最後のパーティーで



さあ英語だ!

言語文化研究院 ^{すず}鈴 ^き木 ^{ゆう}右 ^{ぶん}文

1. 熱心な英語学習が絶対必要

言語文化科目として多くの学生さんが英語を選択しますが、世界中の様々な活動が英語を中心に行われている実態や、入社や昇進に英語試験を課す会社が増えていることを見ると、卒業のために必要だから授業でなんとか単位をもらえばいいというだけの消極的な姿勢でいることは許されない時代になって来たと言えます。工学部の新入生のほとんどが入学直後に TOEIC という国際英語検定試験を受験したほどです。九大の新入生の TOEIC の平均スコアは満点の990点に対して450点前後ですが、会社が求めるスコアは700点以上であり、海外で十分使いこなすには860点以上が必要だと言われています。入学試験に合格した皆さんではありますが、国際的に見ればその英語力は全く自慢にならないのです。

2. 学習計画を立てよう

英語力と言ってもいろいろなものがあります。読む・書く・聞く・話すといった基本的技能から、討論、情報検索といった具体的な能力まで、様々です。これらの力を伸ばすにはどうしたらいいでしょうか。それには授業以外での自己学習も含めてしっかりとした計画を立てることです。

2.1. 欠けている部分を補う

まず九大生に典型的に欠けている分野に取り組むことです。すべての基本でありながらなおざりにされがちの単語力のアップ、高校までの学習で不足しているリスニングの訓練や正確な発音やリズムの体得といったものが考えられます。単語帳やリスニング教材を探してみましょう。

2.2. スピードアップを図る

高校までの学習で比較的良好に取り組んできたはずの「読む・書く」も、実はまだまだ不十分です。試しに英字新聞の1面を5分で読めますか? 日本語の新聞ではそのくらいの時間で読めますね? 実用的な英語とはそういうものです。辞書を使い時間をかければ何とかなるというものとは異なったスピードが勝負の力も英

語には必要なのです。上記の TOEIC は制限時間内に問題を解き終わらない人が多過ぎます。速読速書の訓練のための教材もまた探してみましょう。

2.3 授業以外の学習時間を多く確保する

十分な英語力を培うには、大学4年間で英語の授業時間の5倍以上の学習時間が必要であると言われています。授業は皆さんの学習計画のほんの一部にしか過ぎません。4年間を通じた息の長い計画を立ててください。

3. 九大が提供するものを活用しよう

九大は以上のような学習に資する教材を提供しています。本稿ではコンピュータを利用したものを御紹介しましょう。授業料を払った皆さんにはぜひ活用していただきたいと思います。

3.1 ネットアカデミー

オンラインでリスニング、リーディング、理工系英作文の訓練ができるシステムです。学内のコンピュータで利用します。 <http://gogaku.kyushu-u.ac.jp> を御覧ください。

3.2 Listen to Me!

大学生向けに大学人が開発した CD-ROM のリスニング教材です。六本松地区本館6階2号鈴木右文研究室外廊下を御訪問ください。教材と借出方法が掲示されています。上級中上級合わせて5タイトルあります。中級も近い将来揃えたいと思っています。

3.3 海外英語研修

宣伝ですが、私が御世話しているケンブリッジ大学英語研修も参加を検討されて下さい。参加準備期間の強烈的な学習動機を作り出し、その成果を試す最高の舞台を提供します。 <http://www.rc.kyushu-u.ac.jp/~yubun/index3pembroke.html>

3.4 オンライン対話演習

これも宣伝ですが、私の授業の中には、コンピュータを使って、3次元仮想空間の中で文字チャットによる対話演習を行うものもあります。将来選択可能ならぜひ受講してみてください。

世界・日本

ドイツ・インターンシップ研修体験記



Ich mag Deutschland!! (ドイツが好き!!)

滞在先のレムゴの町ではいろいろなことを体験したが、ここではインターンシップでの体験を中心に書きたいと思う。

インターンシップ先は、結果的には第二希望にしていた小学校に行くことになった。初日はどうなるのだろうと思っていたが、子供たちの笑顔で心配は徐々になくなっていった。僕が名前を紹介した後、質問がある人は手を挙げてと先生が言った途端、ほぼ全員が一斉に手を挙げたのでびっくりした。黒板に自分の名前を漢字、ひらがな、カタカナの三種類で書いたときは、名前の書き方が三つもあるの?と子供たちはすごく驚いていた。ひらがなやカタカナ、それらと漢字を組み合わせる日本語は日本独特だと、改めて感じた。日本文化を写真などを使って紹介したときは興味津々に聞いてくれた。畳や着物などとても珍しかったようだ。千代紙で折鶴を作ったら Das ist schön! (とってもきれい!) と言ってくれた。習字にもすごく関心があった。

小学校は7:45に始まり、遅くても13:00には終わる(ランチはみんなお家に帰って食べる)。その中で、高学年の子供たちは45分の授業を6回も受ける。午前中で終わるわりには6時間もあり、すごく凝縮されている感じがした。休み時間は、短い休み時間(Kleine Pause)とちょっと長めの休み時間(Große Pause)がある。最初のGroße Pauseのときにみんな朝食(Frühstück)を食べる、子供たちはサンドイッチやりんごなどの果物、それにお菓子を持って学校に来るのだ。僕もホストファミリーのRitaお母さんに毎日手作りのサンドイッチ、ヨーグルトや果物を用意してもらった(ハムとチーズをはさんだBrötchenが恋しい!)

1クラスの人数は20人くらいで、先生たちは1人1人その子に合った勉強の進め方をされていた。よくできる子にはどんどん先のプリントをさせるなど、先生たちが1人1人の子供たちのレベルに合わせていた。また、この小学校は精神障害を持った子供たちも受け

入れている学校だった。障害を持った子供を受け入れている小学校は珍しいそうだ。日本にもほとんどそういう学校は無い。障害を持つ子供たちが普通の子たちといっしょに通えるような学校が増えて欲しいと思う。また、ドイツは日本と違って移民の受け入れが多いためか、様々な国の出身の子供たちがいた。日本はあまり移民の受け入れに積極的ではないが、他の国の人々を受け入れることは国際協調をする上で大事なことだと思う。

僕自身、教育には特に関心があるほうではなかったのだが、このインターンシップが教育について考える契機となった。日本の小学校では1人の先生が黒板で教えるという形で、クラスの人数が多い分、一方的な教え方になりがちだが、この小学校では教室に長イスが輪になるように置いてあって、音楽や読み物の時間の時にはクラスの全員が先生と一緒に輪になって座って、歌ったり読み物の練習をしたりする。そうすることで子供たちどうしの距離はもちろん、先生との距離をより縮めることができるのだと思った。クラスの人数が少ないので子供たち個人個人に対する先生の関心、気配りも増すのだと思う。また、英語やコンピューターなどの授業は選択制になっていた。このことも日本には無いシステムである。自らが受けたい授業を選択できることはとても良いことだと思う。日本は今、ゆとり教育についての問題など様々な教育問題を抱えているが、他国の教育に目を向けて良いところを吸収することも必要だと思う。

この研修の四週間の間、ホストファミリーのみんな、特にGastschwesterのAnnaにはいろいろとお世話してもらい、とても助けられた。AnnaはEKG(レムゴにあるギムナジウム)に通っていて日本語も習っていた。そして週に一回くらいKindergartenに実習に行っていた。ドイツではギムナジウムの頃からインターンシップを経験するのだ。いっしょに買い物に行ったり、ディスコに連れていってもらったりもした。

異文化に触れることは楽しいと感じた。新しい体験をすることで、未知なものへの興味、関心が掻き立てられると同時に、自国の文化を再認識するきっかけに

もなった。ドイツは福祉や環境保全で進んでいる国だし、もっとこれからもドイツのことを知っていきたい。

子供たちがくれた手紙や絵は、僕にとって大事な宝物！ もう一度必ず、ホストファミリーや子供たちの笑顔に会いに行きたい！ 工学部3年 櫻木 理



小学生と一緒に

ドイツ・インターンシップ研修旅行

私がドイツに行ってからもう一年が経とうとしている。しかし、きれいな町並み、赤い列車——私の中にはいつでも、ドイツでの思い出がまさに昨日のこのように、鮮明に思い出される。ドイツから帰ってきて、いくつかのレポートを忙しく書いたが、またこうしてドイツのことを書けることをとてもうれしく思う。

このドイツ・インターンシップ研修旅行というのは、レムゴという小さくて歴史的な町に一ヶ月ホームステイしながら滞在し、最初の一週間は、みんな一緒に町の見学とドイツ語の勉強会、残り三週間は、自分の希望したところでそれぞれインターンシップが行えるという、とてもおもしろいものである。

今回この旅行に参加した学生は八人いたのだが、インターンシップ先は、病院、美術館、パン屋さん、幼稚園、市役所、などそれぞれ希望のところにいけることになった。私は将来、教職で就職したいこともあって、小学校を希望した。

小学校に初めて行くと、子供たちがとても歓迎してくれて、少しホームシックになりかけていた私としては、本当にうれしかった。インターンシップとはいえ、先生の中で英語を話せる方はあまりいらっしゃらなくて、私のドイツ語もあまり通じなかったので、ジェスチャー中心のコミュニケーションが続いた。そんな毎日の中で、私がしたことは、子供たちに日本の遊び（折り紙、紙風船を中心に）・言葉（読み・書き）を教えること、であった。

ドイツの小学校というのは、四年生までしかなく、

平均して毎日四時間目まであり、午前中で授業は終わる。私は一日に何回か時間をいただき、子供たちの前で、折り紙の指導、日本語の指導などをした。といっても、ほとんどジャスチャで…。私があまりにもジャスチャばかりで、先生方にはとてもご迷惑をおかけしたと思うのだが、みんなやさしく助けてくださってなんとか授業ができた感じだった。休み時間にはなわとびや、おにごっこやサッカーなどをして遊んだ。ドイツの子供たちも日本の子供たちとすることは似ているようだった。

小学校でのインターンシップ最終日、私はみんなに自分の日本の住所をみんなに教えた。みんなそれを写してくれていたが、まだ小学二年生だし、手紙など書かないだろうと思い、残念だったがあまり期待はしていなかった。

それが、つい一ヶ月前、私がドイツへ行ってからもう一年近くたっているが、あるひとりの小学生から手紙が届いた。内容はとても短く、私が辞書を引かなくてもわかるくらいの短い手紙…「かなこ、元気ですか？ 私は元気です。今日こちらはとても天気が良いです。そちらはどう？ あなたからの返事を楽しみにしてるわ。」という内容であった。私はこの手紙を見て、本当にうれしくて、一年たっても私のことを忘れていないということは、自分は少しはいいことをしたのではないか…と思えるようになってきた。

私はこのドイツ研修旅行で、日本とは違うドイツの生活習慣や、文化に触れることができた。一ヶ月しかいなかったけれど、ヨーロッパでは私の故郷的存在になった。

今度ヨーロッパを旅行できる機会があれば、必ずレムゴは行き、手紙をくれた小学生たちに会いたい。それまでにはドイツ語をもっと勉強しておかなければ…これからもこの素敵な研修旅行にたくさんの方が参加することを祈る 農学部4年 益野可奈子



紙風船で遊ぶこどもたちと



JTWの授業を受講してみよう！

法学部4年 ^{たけ}竹 ^{やま}山 ^ま真 ^み美

皆さんは九州大学にJTW (Japan in Today's World) というプログラムがあるのをご存知ですか？ JTW とは、1年間の外国人短期留学プログラムのことで、このコースでは日本の文化などに関する授業が英語で行われています。これらの授業は全学教育科目として九大生にも開放されており、英語力を伸ばしたい人、留学生と友達になりたい人、これから留学を考えている人にはぜひお勧めです。

私がこのJTWの授業を受講し始めたのは、大学2年の後期でした。ちょうどそのとき私は九州大学の交換留学への応募を考えており、留学前に英語の授業に慣れておくことによって、現地での授業についていけるようにしようと思ったのが、授業を受講を決めた最大のきっかけでした。はじめは、語学力アップのために授業を受講していましたが、授業を受講するにつれて語学力だけではなく、コミュニケーション能力や、日本や他国の文化の理解力といった力も身についたような気がします。おかげで、大学3年次にはイギリスのプリストル大学に交換留学で行くことができ、JTWの授業で学んだことを留学中活かすことができました。また、帰国後も留学で学んだものを活かすべく、JTWの授業に引き続き参加しています。

JTWの授業を実際に受けてみるとわかりますが、海外からの留学生は授業中とても積極的です。それゆえ、授業中は意見を述べる機会が非常に多くなります。また、授業内容が日本に関するものばかりなので、私はよく日本人の学生の代表として、日本のことに対する意見を求められることが多くありました。その度に自分の日本に対する知識というものがとても浅いことを思い知らされ、時には留学生の方が日本の歴史や文化について知っていることもあり、日本人として大変恥ずかしい思いをしました。それからというもの、JTWの授業を受ける際に、与えられた宿題だけでなく、関連した日本に関する本などを事前に読み、授業中積極的に発言するように心がけました。JTWの授業を受けて、一番心にしみて感じたことは、コミュニケーションというのは、語学力だけではなく、そのト

ピックに対する理解力が大変重要であるということです。また、「真の国際化は、まず自分の文化をよく知ることから始まる」とよくいわれますが、JTWの授業を受けてみて、このことを身にしみて感じました。私も、留学中日本人は日本のことを知っていて当然と思われ、よく日本のことについて聞かれることが多くありました。このようなことをJTWの授業で事前に経験できていたことは、私の留学生活にとって大変プラスだったと思います。

また、JTWの学生たちは皆日本について興味がある学生で、日本人の友達を多く作りたと思っています。そのため、自分から授業の開始前後に積極的に話しかけることで多くの友達を作ることができます。時には、彼らの方から授業のことや大学生活のことで相談をうけることもあり、私もそのような機会を活用して、多くの留学生の友達を作ることができました。彼らと接することによって、日本を「外」から客観的に見る視点を身につけるとともに、他国の文化というものも同時に学ぶことができ、自分の視野を広げるのに大変役立ったと思います。

以上述べてきたように、JTWの授業では語学力のアップだけでなく、コミュニケーション能力や、自国や他国の文化理解ということも同時に学ぶことができます。現在、国際化という言葉が叫ばれて久しくなりますが、このような時代において、語学さえできればいいというものではないということは、皆さんもご存知のことだと思います。しかしながら、語学力以外の力をどのようにつけばいいのかということは普通の大学生活で見つけるのは大変難しく、見つけたとしてもすぐ実行に移すのは大変難しいことだと思います。よって、留学を考えている人はもちろんのこと、語学力だけでなく、真のコミュニケーション能力を身につけ、国際化時代で生き残れる人材になりたいと思っている方はぜひJTWの授業を受講してみてください。きっと何か得られるものがあるはずです。

4月から始まるJTWの時間割は15ページの下段に掲載しています。

海外派遣留学制度

海外派遣留学制度とは、学生交流協定を結んだ外国の大学に、授業料不徴収と単位互換を原則として、1年間留学する制度です。留学を希望する皆さん、留学に関心のある皆さん、是非挑戦してみてください。詳しい情報はホームページでみてください。(http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/jpn/)

学生交流協定を結んでいる大学

国名	大学名	国名	大学名	国名	大学名
韓 国	釜山大学校	タ イ	マヒドン大学	ド イ ツ	ルードリッヒ・マクシミリアン(ミュンヘン)大学
	忠南大学校		チュラロンコン大学		ホーエンハイム大学
	梨花女子大学校		タマサート大学	ベルギー	レウヴェン・カトリック大学
	延世大学校	シンガポール大学	ルーヴァン・カトリック大学		
	西江大学校	シンガポール	シンガポールマネジメント大学	イギリス	マンチェスター大学
	慶熙大学校	フィリピン	フィリピン大学		パーミンガム大学
	ソウル大学校	インドネシア	アテネオ・デ・マニラ大学		グラスゴー大学
	浦項工科大学校	アメリカ	カジャマダ大学		シェフィールド大学
	慶北大学校		ワシントン大学		ブリストル大学
	慶尚大学校		ライス大学		ストラズブルコンソーシアム
済州大学校	ミシガン大学		ルイ・パスツール大学		
中 国	新疆師範大学		ウィスコンシン大学マディソン校工学部		マルク・ブロック大学
	清華大学		デューク大学		ロバート・シューマン大学
	華南理工大学		ベレア大学		グルノーブルコンソーシアム
	浙江大学		グローブシティ大学	ジョセフ・フルニエ大学	
	上海交通大学		ケンヨン大学	ピエール・マンデス大学	
	復旦大学		ガウチャー大学	スタンダー大学	
	中国人民大学	ジョージア大学	グルノーブル理工科大学		
	南京大学	トロント大学	エコール ナショナル スーペリウールド テクニクアヴァンセ		
	香港大学	クィーンズ大学	エコール ノーマル スーペリウールド カシャン		
	香港中文大学	オーストラリア	クィーンズランド大学	エコール スーペリウールド デレクトリシテ	
台 湾	国立台湾大学	ド イ ツ	ミュンヘン工科大学	エコール ポリテクニク	

- | | |
|--------------------------------|---------------------------------|
| 1. 印のない大学は入学金・検定料・授業料のいずれも不徴収。 | 2. の大学は授業料のみ徴収。 |
| 3. の大学は大学院生の場合は検定料を徴収。 | 4. の大学は英語によるプログラムを有する。 |
| 5. の大学は英語のみを使用言語として留学可能。 | 6. の大学は特定分野に限り英語のみを使用言語として留学可能。 |

JTW CLASS SCHEDULE FOR SEMESTER-2 (Apr. 5-Jul. 22, 2005)

	Tue	Wed	Thu	Fri
CLASS 2 10:30 ~ 12:00	Urban Psychology in Asia Prof MINAMI	Linguistic Description of Japanese Prof OKAZAKI	Japan as Anthropological Object Prof POLLACK	Gender in Contemporary Japan Prof NAKAMURA
CLASS 3 13:00 ~ 14:30	Seminar on Japanese Politics Today Prof HACHIYA		Current Issues in the Japanese Economy Prof IMAI	Introduction to Japanese Literature Prof CROSS
CLASS 4 14:50 ~ 16:20				Medicine in Japan Faculty of Medicine
CLASS 5 16:40 ~ 18:10	East Asia's Contribution to International Social Development Faculty of Languages and Cultures	Seminar in the Japanese Economy II Prof IMAI	International Law and Politics in East Asia Prof HAN	

Course descriptions and syllabi are available at the JTW website: <http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/jtw/courses/courses.htm>
 Course registration deadline: Friday, 14 April

受講するにあたり、原則としてTOEFL530点以上の英語力を有することが履修条件である。



KUDOSU -Kyushu Uni. Design School

留学生芸術祭 GLOB.ART.FESTIVAL

1月24日～29日に開催される留学生による芸術祭です。これは展示会なのですが、私達はこの芸術祭。これまでこの芸術祭は、今回は展示会は学外で開き、更

□展示会について□

さて展示会は、西鉄大橋駅の地下、西鉄名店街「味の街」の通路を借りて行いました。「味の街」は飲食店街であるだけでなく、駅の地下を通り抜ける時の自由通路でもあります。このため飲食店の客の他、中・高・大学生や買い物客、駅や商店街のスタッフ、御老人の方々まで、実に多彩な人達がやってきます。通りがかった人達が、ふと足を止めて見入っている姿はとても新鮮な感じがしました。

また作品は、絵画や水墨画、書道、写真、3DCG、デッサン、ポスターデザイン、研究発表のパネルなどなど、実に多岐にわたっていました。

私達はこの芸術祭。それは、大学と点。特に展示会では現化することができ学の中に隠れてしまったものを外の人達にこではこんなことをの人達に知ってもらいでした。

なぜ、そんな事かとです。ここが大学だけのためのもので元されるべきものだ「術工学」部では単な「のための技術」が求本本当に誰かのために由があります。ならに關わる中で自分達のは、ごく当然のこけでなく、実際の社を置く事がとても重今回の企画を実行店街会長や名店街のになりました。ただ士という以上の信頼

今回の企画はごくに過ぎませんが、こかをやっていく人間はならないことが隠っています。



さて、なぜ展示会を駅の地下で開いたのか…

実に簡単なこと。「たくさんの人達に見て欲しいから」です。大学の中で展示会をしても、その大学内の人しかほとんど来ません。それに大学内でも、建物の片隅でやっている学生すらなかなか訪れません。たしかに「広報活動がたりない」といえばそれまでですが、見て欲しいなら、その見て欲しい人達のいる所に置いてしまうのが一番。そういうことです。ごく当たり前のことなのに、案外やってない事ってあるもんです。



Kyushu Uni. Design school
Overseas Students Union

KUDOSU

GLOB.ART.FESTIVAL

LOB.ART.FESTIVAL

LOB.ART.FESTIVALは、大橋キャンパスの留学生会に
と会と民族芸能ライブからなる一週間のイベントだった
に様々な試みを盛り込みました。

内ホールでの展示会のみで行われていたのですが、今
に主に留学生による民族芸能を中心としたライブまで



□民族芸能ライブについて□

29日の夜、大橋キャンパス多次元デザイン実験棟。留学生バンドの演奏で幕
を開けたライブは、韓国、中国、カザフスタン、アフリカ、日本などから総勢
10組が出演。歌に踊りに二胡や太鼓、ピアノに琴に尺八に詩吟など、よくまあ
これだけのものが集まったなあというくらい、多彩な地域の文化交流の場とな
りました。



このライブをやるにあたっては、学内の技術屋サークルの機動力が欠かせませ
ませんでした。照明屋、TRP（音響）、RecLab（撮影）のメンバーが前日の夜に
遅くまで一生懸命に仕込みをしている姿には、裏方魂（？）を感じずにはいら
れませんでした。熱意ある陰の立役者です。



ライブ本番後の打ち上げは、スタッフと出演者が入り混じって盛り上がりま
した。出演者同士はもちろん、裏と表の、立場の違う者同士の交流会というの
は、とてもおもしろいものです。同じ事を違う視点で捉えた人の話というのは
お互いにとってとてもためになる話。それ自体だけでは終わらずに、観た人も
やった人も何か得るものがあるイベントになったのは、企画した側としては嬉
しい限りです。

にあるものを込めまし
大学のある地域との接
、それをはっきりと具
たと思っています。大
って見えなくなってい
見てもらう。「ああこ
やっていたのか」と町
うことが、私達のねら

必要なのか。簡単なこ
だから。研究は研究者
はなく、広く社会に還
から。私達のいる「芸
る技術ではなく「人間
められます。つまり、
なってこそ存在する理
ばその「誰か」と実際
の技を洗練させていく
と。だから大学の中だ
会との関わりの中に身
要なのです。

するの中で、近所の商
方々には本当にお世話
同じ場所に暮らす人同
関係が築けました。

当たり前的事をやった
の中には社会の中で何
として、決して忘れて
れている…そう私は思

FESTIVAL

写真・文章：太田一彦（芸術工学部4年）

芸術祭実行委員：王婷婷, 曹梨眞

Sophia Kharobi, 太田一彦



日本の精神・美德?!

21世紀プログラム2年 お だわら きょう こ
小 俵 京 子

靖国神社参拝，皇室の継承，国際交流……。様々な話題をとりあげて弁論していく弁士達の熱気に，私は思わず圧倒されてしまいました。2005年1月15日，私は東京で行われた，フジサンケイグループ主催の土光杯弁論大会に参加しました。テーマは「改めて問う日本の精神・美德」。しかし，一口に日本の精神・美德と言っても幅広く，「自殺は良いことだ」と言うような画期的な意見や，「靖国神社参拝は合憲だ」と言うような主張もありました。

土光杯弁論大会は毎回，まず一次（論文）審査が課せられており，選ばれた18人の弁士が出場することになっています。私は偶然この大会主催の話を聞き，「昔弁論部だったし，一次審査通るかなー」くらいの気持ちで気軽に論文を提出していたため，一次審査を通過し，出場が決まったことを知って本当に驚きました。同時に，「気軽に受けて下手な弁論は出来ない」という責任感にも駆られました。原稿を何度も推敲し，証拠資料を集めること数週間。周りの友達に意見を聞いて回り，少しでも意味が伝わりにくい表現や曖昧な主張は全てカットして，洗練された分かりやすい原稿作りに励みました。

私の主張した内容は，「日本の国力の向上について」。海外諸国において，高い評価を受ける日本のアニメや映画産業を活かして，ソフトパワーを向上させることは出来ないだろうか，そのためには何が必要だろうか，という論旨です。難しいテーマである以上，観客に少しでも興味を持っていただけるように，「千と千尋の神隠し」や「ラストサムライ」，「ブラックジャック」などの身近な例を取り上げながらの弁論でした。

ちょっと緊張しながらいざ足を踏み入れた，当日のサンケイホール。その会場の空気は，想像以上に熱く，また過激でした。中学生や高校生による弁論大会で，観客から野次を入れられたり，また「そうだ，そうだ！！」などのあいづちを入れられたりすることは，まずありません。しかし今回の大会は一味違い，弁士が登壇したとたん，「弁士の弁論に期待する！」などの熱い掛け声をかけたり，拍手をしたりするなど，観客がダイレクトに感情を弁士にぶつけてきます。その空

気に吞まれ，逆に気持ちがずっと楽になったのを感じました。

登壇し，弁論を行った8分間。難しいことは考えず，とにかく笑顔で余裕を持って弁論することを心がけました。問題は，その後に続けて行われる質疑応答の2分間。返答に窮する質問を続けざまに浴びせられ，頭はパニック状態。だからこそ，どのような返答をするかに弁士の手腕がかかっています。何とか口調を整え，落ち着いて返答してみせたものの，内容の信憑性については全く自信がありませんでした。

結果として，今回の大会で私は「東京財団賞」を戴くことが出来ました。もらった直後は全く実感がわかなかったものの，時間が経った今，予想以上に素晴らしい賞を戴いたのだと今更ながら感じています。副賞として台湾へ研修旅行に行ける事になり，以前には全く知らなかった台湾の政治事情や文化にも少しずつ興味をもち始めました。

今回の大会に出場して学んだこと。それは，「学園の場は自分で切り拓くのだ」ということ。サークルや部活動としてではなく，あくまで個人として参加した今回の大会では，他大学の雄弁会の力を感じ居心地の悪い思いをすることもしばしばでした。しかし，様々な意見を聞き，自分の主張を批評され，多くの人と交流することで，私の世界はまた更に広くなりました。これからも，もっと視野を広げられるように多くの活動に積極的に参加していくつもりです。気弱になった私を支え続けてくれた家族や友達には，本当に感謝しています。特に21世紀プログラムの皆さんには，忙しい中何度も弁論を聞いてもらい，一緒に原稿を推敲してもらいました。この場をお借りして，感謝の辞を伝えたいと思います。

最後に，私が大会で述べた弁論の要旨を付します。これを機に，皆さんの世界がちょっとだけでも広がることを祈って……。

弁論要旨「国力の向上を目指して」

2002年アニメ「千と千尋の神隠し」，アカデミー賞受賞。2003年映画「ラストサムライ」の記録的大ヒッ

ト。近年、海外諸国において日本のアニメや漫画、映画などの文化産業が高い評価を受けている。これを利用して国力を向上させることはできないだろうか。

国家の力は従来、軍事力や経済力などのハードパワーとして考えるのが一般的であった。しかし現在はハードパワーだけではなく、他国を魅了する文化力やアイデアを生み出す想像力、つまりソフトパワーをも併せ持つ必要がある。私は日本の漫画やアニメ、映画、文学などの文化を通して、ソフトパワーを向上させる方策について考察したいと思う。

ソフトパワーとしての日本文化を考える際、大切にすべきなのは、「日本的価値観を発信すること」。日本的価値観、つまり日本の精神や美徳を、文化を通して発信しなければ日本固有の魅力が発揮できず、真の国力をつけることはできない。それでは、果たして日本の精神や美徳とは何だろうか。侍魂、それとも大和魂？ それは日本人の寛容さではないかと私は考える。

過去において日本人の寛容さや受容力はしばしば批判の対象だった。主張が曖昧、異文化を導入することを厭わない、誇りが無い、と考えられがちだったからである。しかし相違点も共通点も認め客観的に比較して考え、その解決策を模索する力を持っているのは、おそらく日本人である。例えば私たちは、漢字、片仮名、平仮名、ローマ字などの文字スタイルを使い分けるが、これらは諸外国の文字を導入する際、変化したものがほとんどである。日本人は、他の国の文化を導入し、それを改良して上手く自分の国に浸透させる力を持っている。日本がアピールすべき精神や美徳は、これまで注目されてこなかった寛容さ、受容力なのだ。

ではこれらの日本の精神や美徳をどのように文化に活かしていくべきか。私は題材よりもむしろ描き方、解釈の多様性を重視していく必要があると考える。例えば手塚治虫の漫画、「ブラックジャック」。誰よりも生命に対して厳しく、それでいて謙虚なモグリ医者。弱者にも高い治療費を要求する冷酷さ、それでも正義感に燃える密かな情熱。ブラックジャックの性格は、白と黒とに区別できない人間の本质に、とても忠実である。彼が良い人か悪い人か、手塚治虫は何も描いていない。評価するのは読者一人一人なのだ。このように日本のアニメの特徴は、勧善懲悪、因果応報といった従来のテーマに則らない人間の描き方にあると言われ、評価されてきた。日本人の寛容さを活かした独創的な描き方によって、新しいモノの見方を提供することが、日本文化を発信していく上で益々重要になるだ

ろう。

これを実現するには、私は次の三つが重要であると考える。一つは国が文化振興のための予算や、制度を充実させることである。文部科学省は平成16年度文化庁予算については文化芸術の総合的な振興を図るため対前年度13億円増の1016億円を計上したが、これでもアメリカやフランスなどの諸外国と比較すると全予算に占める割合は極めて少ない。また、文化振興のための制度についても設ける必要がある。

二つ目は教育を強化することである。学力の向上だけにとどまらず多様な解釈を与えうる創造力を身につけることが大切だ。同時に、コミュニケーション能力を高めなければならない。「総合的な学習の時間」をもっと活用し、フィールド・ワークや実験などの教育の場を広げること、そしてプレゼンテーションやディスカッションの機会を増やすことなどが重要である。三つ目は「新たな文化芸術の担い手を育成すること」である。芸術家の総人口をもっと増やさなくてはならない。アメリカには、映画学部などの芸術専門学部を設けている大学が沢山あるが、日本には美術や音楽などの、限られた芸術を専門とする大学しか設けられていない。日本も文化芸術の後継者育成に取り組むべきである。

このように現代日本を反映した文化を発信し日本の精神、美徳をアピールすることが、日本のソフトパワーの向上に生かされ、ひいては国力の活性化につながるのではないだろうか。資源をもたない日本がハードパワーを駆使することは困難だが、ソフトパワーならば、強化できる。なぜなら、日本のように孤立した文明こそ、諸外国にとって最大の魅力となりえるのだから。目指せ、ソフトパワーの国、日本！！(原稿 終)

皆さんがソフトパワーや国力の向上に興味を持ってくだされば幸いです。ありがとうございました。



産経新聞 平成17年1月19日 28面掲載

サークル紹介



山岳部一年生の思うこと

理学部2年 ^{せん}千 ^{さき}先 ^{はる}治 ^き樹

春 — 憧れの大学での生活が始まった。サークルを探すときに目に付いたものがあった。「雲よりも高い世界へ」山岳部のポスターにはそんな言葉が刻まれていた。ガイダンスを聞きに行くと、意外にも主将は女性だった。先輩方は穏やかだが山に対する熱い気持ちを持っていた。僕はその静かな雰囲気惹かれて入部した。

夏 — 北アルプス劔岳のキャンプ場で僕はひとり横になっていた。前日の雪上訓練で膝を痛めて動けず、テントで休んでいた。自分が臆甲斐なく情けない気持ちで一杯だった。大学生活に慣れるのに精一杯で部活に積極的に参加しなかったことが悔やまれた。また雪渓の怖さを知り、命が懸かっていることを実感した。

秋 — 阿蘇のほとんど垂直に思えるような峰の上に立った。初めてのアルパインクライミングであった。登る前はこんなところ本当に登れるのかと思ったが、数時間の苦闘の末に上にたどり着いた。充実感でいっぱいであり、その夜のキャンプはいつもに増して楽しかった。

冬 — 期待と不安を抱えつつ、雪の急斜面へと取り付いた。4日間のラッセルを経て、爺ヶ岳の山頂にたどり着いた。翌日には地吹雪の中アタックし、鹿島槍ヶ岳の山頂にたどり着いた。雪の向こうに見つけたものは、「嬉しい」というシンプルな感情だった。夏の悔しさをばねに後期の練習を頑張った甲斐があった。また、ここまで導いてくれた先輩・同輩や両親や多くの人に対する感謝の気持ちが湧いた。



そして現在 — 先日宮崎の岩場でクライミングの長いルート初めて先頭で登った。怖い気持ちを抑えて登りきり、大きな自信となった。今後、新入生を指導できるようにするためにはもっと練習しないといけない。

ここでは僕の1年間の気持ちを短く紹介しました。山に対する気持ちは部員それぞれですが、皆うちに熱いものを持っています。山岳部ではオールラウンドな山行を目標とし、夏山・冬山とクライミングを両輪として活動しています。現在部員は11名、日常的な練習は大宰府の宝満山と糸島の野北海岸で行っています。活動には危険なこともあります。しかし練習を積むことでその危険を越えて、より高い世界へ登ることができます。また自然の中に身を置くことは自分自身と向き合うことになります。

山岳部は成長の幅が大きい部です。登山の未経験者でも、卒業の頃には冬山のリーダーとしての能力を身につけているのです。そこには先輩から後輩への技術のリレー、リーダーの育成というあり方が残っています。古いと感じるかもしれませんが、そこから得られるものは自分の将来にもつながる大切なものです。僕達と一緒に成長したい、高みへと登りたいという人は山岳部の扉を叩いてみてください。お待ちしております。

ホームページ <http://quac.stepserver.jp/>メー ル admin@quac.stepserver.jp

九大美術部紹介～表現したいあなたに～

工学部 2年 ^{もり}森 ^{なみこ}奈美子

薬学部 2年 ^{さい}齋 ^{とうじゅん}藤 順平



皆さんにとって『美術』って何でしょうか。『表現すること』、『感動するもの』という意見から、『面倒なもの』、『理解できないもの』なんて否定的な意見まで出てきそうですが、実際、その意見の全てが当てはまると思います。美術部員である私達だって、描いている絵を途中で嫌になって放り出したくなるし、この絵のどこがいいのか分からない、なんてしょっちゅうです。それでも、『表現したい』、感動とまではいなくても『何かを感じてほしい』、いつもそう思っています。面倒臭がりでもどこか熱い。そんなヤツらが集まったのが九大美術部です。

『美術』というと絵画のイメージが強いですが、九大美術部では様々な『表現』の作品があります。油絵、水彩画、切り絵、CG、オブジェ、PCによる音楽制作などジャンルを超えた多種多様な形態があります。それこそ各部員1人1人が全く違う自分なりの『表現』をしているのです。また、『美術』は何だか孤高な感じがしますが、九大美術部は水曜に六本松でクロッキー会、土曜に箱崎でデッサン会、部会など、毎週皆で集まって学年の枠を超えて活動しています。合間の雑談や終わった後の食事を交えた団欒に、仲間との交流も深まってきます。描くことにしろ、作ることにしろ、何かを表現する仲間同士との交流は格別のものです。

第57回九大祭では、私達1回生は巨大パネル(立て看板)制作に専念しました。これは毎年1回生だけで行われる伝統です。いわゆる九大美術登竜門(なんか格好良いですね)。学祭までの約3週間、原画、線画、ペンキで色塗り、立ち上げ、とパネルとの大格闘を繰り返します。ペンキで汚れた、間違っで色塗りした、なんていう失敗もあるけど、1日の作業の終わりに皆で食べる夕食(その時によってめんちゃんこだったり、

お好み焼きだったり)は、ささやかながらも幸福な時間です。妙にハイテンションだったり、まったりだったり、そんな楽しい時間がたくたくの体に心地よく染み込みます。

学園祭では、パネルの他に模擬店や展示会も開かれます。模擬店は2回生、展示会は3回生が準備を務めます(展示会の作品はもちろん全学年)。去年の模擬店は、先輩シェフが披露してくれたホットドック(チーズが見事にマッチ!)でした。1年のうち美術部最大の展示会でもある学祭展は約600人もの来場者が訪れ、アンケート用紙の補充をしなければ追いつかないほどの盛況ぶりでした。来場者の皆様のアンケートは、『表現する』私達にとっては本当にかげがえのないものです。それらに一喜一憂して、私達はまた新たな『表現』へと挑戦できるのです。学祭展の他にも、五月展、葉月展、四号展、合同展など自分を表現できる場は多くあります。また、他大学とのイベント(砂アートなど)もあり、意欲がある限りいくらでも自分を成長させていけます。

私達もまだ一回生で、ここに書いたことは九大美術部の片鱗でしかありません。新たな一面はこれから私達がまだまだ作り出していきます。それを一緒に作りたい方、自分も表現したい方、九大美術部に興味を持ってくれた方は、それを一緒に作りたい方、自分も表現したい方、九大美術部に興味を持ってくれた方は、是非部室に顔を出してみてください。きっと、ちょっとシャイで、でも気のいいヤツらが快く迎えてくれます。新しい世界へのきっかけをその手に掴んでください。



九大美術部公式ホームページ

<http://www2.ofc.kyushu-u.ac.jp/localuser/GK000020/>



いちおし☆共同合宿

農学部3年 朱 雀 奈津子

この共同合宿の利点は、とにかく普通の授業では得ることのできない体験をたくさんできるという点にある。

●ものすごく濃い授業

当たり前だが、この合宿には各大学からそれぞれの学生が意欲的に参加しているため、授業ではものすごく濃い討論を互いに交わすことができる。それは少人数ゼミなどの比ではない。今まで学校の授業での討論には不満があったという人でも、絶対の自信を持って満足してもらえらると思う。同年代の人の考えの深さというものに驚き、多大な影響を受けることは間違いない。何度も繰り返される討論により、自らの表現力もつく。出会って数日であっても、議論を交わすうちにまるで昔からの友達のようにお互いを分かりあうことができるのは何とも不思議である。

また、合宿での授業では、先生と生徒との双方向性を強く感じることができる。高校までとは違い、大学での授業、特に教養では先生と話す機会など殆どなく、どことなく溝を感じることも多いだろうが、そのような考えを持つことはまずない。

●各大学による出し物

講義ばかりではなく、夕食後の時間を使ってのレクリエーションも行われる。各大学で事前に何をするか計画を立てておき、それを披露する形になる。毎年最もこの出し物に力を入れてくるのが琉球大学で、伝統あるエイサー（踊り）と三線の音色はうわさ通り圧巻だった。一方、九大は毎年ノリが悪く、最低の評価を受けるとのことだったので、何をするか非常に迷ったのだが、結局、今回九大は初日ということだったので、出し物というより、全員が交流を深めるためのゲームを行った。これが何とも好評で、今までの〈ノリの悪い九大〉というイメージを消すことができたようだった。他にも佐賀大学は全員による喜劇、長崎大学は“よさこい”と呼ばれる踊りを披露してくれ、何とも楽しい時間だった。



オリエンテーション

合宿中、空き時間を使って様々なオリエンテーションが行われる。私たちのときは一つの時間にいくつかのコースがあり、その中から各自選択する形をとっていた。体育館でのスポーツや、処理場見学、ハイキングなどがあった。私の場合、ハイキングコースを選び、皆と一緒に低い山に登った。最初は皆余裕なのだが、だんだんときつくなってくる。誰かがこけたりしないようにみんなで声を掛け合ううちに、徐々に仲が深まっていった。また、合宿終了後にも希望者には楽しい登山が用意されている。今度は本格的な登山なので油断は禁物だ。下山後に皆で食べる麓のソフトクリームは絶品。



合宿後も…

合宿後も各大学のメンバーとの交流は続く。講義中では触れなかった話題などを語り合ったり、他の大学のことやメンバーそれぞれの今の様子を聞いたり、視野が広がることも多い。各県のおすすめスポットを教えてもらったりもする。

合宿共同授業とは？

本年度で29回を数え、伝統を培ってきた授業です。本年度は、それぞれの大学での「現代社会におけるモラル」というメインテーマをめぐる事前学習を経て、琉球大学、長崎大学、佐賀大学、福岡教育大学、そして九州大学の5大学の学生が8月26日から29日（3泊4日）の合宿に臨みます。合宿では、他大学の教員の講義を聴いて討議を行い、学生フォーラム（テーマ：社会人として必要なモラル）を学生主体で企画・運営します。オリエンテーション（募集）の日時については掲示でお知らせします。（九州大学の募集人数は14名です。）

不連続を愉しんで、大学の学びに適応する

なが の つよし
長 野 剛

学問・研究に直に接する機会を得て心機一転するとはどういうことなのでしょう。深呼吸をすると、余分な力が抜けますよね。それが心機一転なのですが、私達は、「よし頑張るぞ」と、つい力を入れてしまう厄介な癖を持ち身につけています。慣れ親しんだ場であるなら、力んでもさして支障はないのですが、新しい環境での力みは、他罰的でネガティブな感情を引き起こしかねません。

適応力の有無は、不慣れなことや予想外のことに遭遇したときにこそ、「なぜ？」と首をかしげて、モノ・コトを観察できるかどうかにかかっています。「なぜ？」という問いをたくさん立てることができるなら、文字通り、問うことによって学ぶ「学問」へのレディネスが形成されていることになります。

そこで、新入生のみなさんの「なぜ？」が由来するであろう高校までの学び（学習）と、九州大学のような研究大学での学び（学問）との不連続について考えてみます。過去と連続していることだけを頼みにしていたのでは、貧相な「なぜ？」しか出てきませんし、学生になったつもりが、正解を教わる生徒にとどまっただけで大学生活を送ることになりかねません。

不連続 1 学びを本務にしている教員

しばしば、「大学の教員は教えることが下手だ」と言われます。それはそうなのでしょう。大学教員は、答えのないこと（未知）をテーマに、つまり、教えてもらえないことにかかわる問いを立てて、学び続けてきています。正答や自明（当たり前）は問い直すのが学問・研究です。ところが、教えるとなると、正答や自明を採りあげて確認し直すことになります。これには、いつもとは異なった自己を用意しなければなりません。大学教員の学生の皆さんへの期待は、問いを問いかけられたときに、それを愉しめるようになってもらいたいということにあります。

周りを見回すと、未解明なことだらけで、正答があるのは、入学試験や資格試験に出題可能な事柄だけだと言っても過言ではないのです。

不連続 2 学びの動機づけ

学びの動機づけを整理すると、大きく3つが考えられます。学び（学問）にとりかかるための 初発的動機づけ、学び（学問）を選択するための 志向的動機づけ、学び（学問）を定着させるための 強化的動機づけ がそうです。これら3つの動機づけには順序性があります。大学での学びに適応するには、動機づけを行うのが心の仕組みにかなっているのですが、入試を終えたばかりの時期は、これらの動機づけの順番が逆になっているようです。

もし「きつい」「退屈」「無駄」など感じられる学び（授業）に遭遇したら、初発的動機づけや志向的動機づけなしに、単位を取るために試験に備えて、何をどこまで覚えたらいいかという強化的動機づけのみが空回りしているのではないかと、省察してみてください。

さて、初発的動機づけは、何に由来するのでしょうか。それは、好奇心です。

不連続 3 好奇心

大学は、どこかにしまっておいた好奇心をとりもどす場です。あなたが、今、好奇心が旺盛だと自負しているとしても、「なぜ？」をうまく言葉にできなかった子どもの頃の好奇心と比べると、はたして好奇心と言うに値するかどうか、はなはだ疑問です。子供は、何がなんだかさっぱりわからない物事に囲まれています。チンプンカンプンなことだらけの中で生活しています。しかし、子供の観察力はたいしたもの。予断なしに物事を観て、その基本的性質（本質）は何なのかを洞察しています。ところが、「こんなモノ（答え）がありますから、見落とさないように注意してください」と、分かりやすく教わるうちに、好奇心に応える道具となっていた、観たことを察しによって統合する観察力はしぼんでしまいます。

好奇心というのは、問題の解決を図るためのマニュアル（how to）以前の、問題を発見する力、問いを立てる力に他なりません。今日、あるいは、この一週間、「おやっ」と立ちどまったことを列挙してみると、

好奇心の幹や根っこが見えてきます。そこに初発的動機づけが姿を現わします。初発的動機づけというのは、他者に一言では説明できない私ならではの関心、目のつけ所、視点ないし眼差しと言えます。

不連続4 意欲よりも関心

意欲という日本語を英語にするにはどうしたらいいのかは、とても悩ましい問題です。おそらく、意志と欲求をあわせて、意欲という言葉ができたのでしょう。しかし、心の仕組みとしての意志と欲求は、水と油のようなもので、やみくもに動き回っている間は攪拌されて、さも融合しているかのように錯覚するものの、沈黙考し始めると、意欲は、たちまち意志と欲求に分離してしまいます。「意欲的に取り組みなさい」としばしば言うものの、では、意欲って何だろうと問いを立てると、正体不明だということです。私たちの日常は、知らずして分かっているつもりなのに踊らされているのではないかと思えてきます。

学びの展開と結実を左右するのは、意欲でなく、関心です。興味や関心と、いっしょくたんにして言いますが、興味には踊らされているのではないかと危惧されます。たとえば、物理学の試験で何点とれたかというように評価とかかわるのは興味であり、評価と関係なく物理学は面白いというのは関心だというように、興味と関心を区別してみると、志向的動機づけがはっきりしてくるかもしれません。その時々の結果が気になる興味にもとづく学び（学習）と、結果はともあれ持続的な自己関与がなされる関心にもとづく学び（学問）とでは、身につくことが異なってくるのです。

不連続5 目的意識って？

高校までは、しばしば目的意識の大切さを説かれたことでしょう。目的というゴールを意識することは大切にちがいののですが、ゴールを決めたがゆえに、偶然、試行錯誤、紆余曲折といった体験によって遭遇する奥行きや広がりのある世界を看過してしまうことがあります。明確な目的意識は、学びが目的につながっているかいないかを判明にしようとする合理的な態度をもたらします。卑近な言い方をすれば「...のためになるか、ならないか」という判断が学びを左右するということです。たとえば、「僕は工学部だから政治や歴史の授業は、専門の勉強のためにならない（役立たない）」という判断は、興味がないという表明ではありますが、それによって自ら関心の幅を狭めること

になりかねません。目的意識が悪いと言っているのはありません。目的意識は、時として、二者択一的な学びの選択に陥る可能性があることを知っておいてもらいたいのです。

「でも、社会貢献という目的をもつことは、悪いことでしょうか？」と、反論されそうです。この反論は、目的には善い目的と悪い目的があるという二者択一的な判断にもとづいているところに限界があります。確固たる信念、一貫した主義主張（のような原理主義）を学びに持ち込むと、事実を観察する際に、知らず知らずのうちに、自分が信じている原理に都合のよいことだけを収集することになりかねません。大学での学びには、前もっての確固たる硬さ（rigidity）よりも事実に基づいて考察する柔らかさ（flexibility）のほうがふさわしいと思えます。

不連続6 情報と知識

これからの情報化の時代を生きるにあたり、折々、情報と知識のちがいについて考えることにも意義があると思えます。学びの体験で獲得しようとしているのが情報なのか知識なのかを問うてみるのです。

たとえば、ユーミンの福岡でのコンサートは何日の何時からどこであるかというのは、聞けば分かる情報です。一方、ユーミンのコンサートのチケットは「なぜ、すぐに売り切れるのか」という問いに応えるには、ユーミンの音楽にまつわる知識が必要になります。知識には個々の体験（知識の担い手ならではの想い）が伴っています。ですから、知識は聞いたからといってすぐに分かるとは限りません。知識は、どうしてそんな説明になるのだろうと、新たな問いを引き起こすことによって知識になるものです。誰にでも分かりやすい、つまり、問い直しが生じないのは、それが知識でなく情報だからかもしれません。

授業が専門的で理解するのが難しいと感じるのは、知識の一端を垣間見ているからです。今、分からなくても、知っておくことによって、将来そこに戻ることができることができます。大学の授業には、知識の種まきという重要な機能があります。大学教員は、分かりやすい授業をしようと工夫を凝らしているのですが、知識を情報に翻訳するには、強引な手法を用いざるをえず、躊躇することが多々あります。授業が、分かりやすい答えを教え教わる場でなく、問いを問いつく場となれば、さぞかし楽しいことでしょう。

（高等教育総合開発研究センター・心理学）



大学生生活の“目標を考える”こと

— 学生生活・修学相談室の案内 —

た なか たけ お
田 中 健 夫

新年度になり、大学生生活へとふみだした1年生の皆さんは新鮮な毎日を過ごしていることでしょうか。そして、キャンパスの中に自分の居場所をつくろうと—居「場所」といっても、それは物理的な場所というよりは安心できる人間関係（の場）をみいだそうとしているのではないのでしょうか。2年生は、そういうことは「はるか昔のこと」とキャンパスの喧噪を横目に、慣れた九大での生活に手応えや充実感を、あるいはその反対に物足りなさを感じているかもしれません。この大学生という“始まり”と“終わり”のある期間に、皆さんは、さまざまな変化と移行を経験することでしょう。

学生生活のイメージは？

さて、4年ないし6年間の大学生生活は皆さんにとってどんなイメージでしょうか。“成し遂げたいこと”に向かって着実に階段を昇っていく それは受験勉強のように という上向き直線を思い描いているかもしれません。では、皆さんの子ども時代はどうでしたか。小学校の頃は、帰りに道草をしまっすぐ家に帰らない日もあったでしょう。たとえば今の皆さんの食事の場面を考えてみても、余計な話をしないで摂取するだけならばそんなに時間はかかりませんね。恋愛となるとどうでしょう。最短距離で“両思い”に到達するのがいいかもしれませんが、そこに至るまでの紆余曲折がもっと(?)楽しかったりするのではないのでしょうか。と考えてくると、脇道に逸れたり無駄かもしれない経験の中にも意味があるかもしれず、また脇道をどのように歩むかに、その人の持ち味があらわれてくるようです。

修学意識についての調査をふまえて

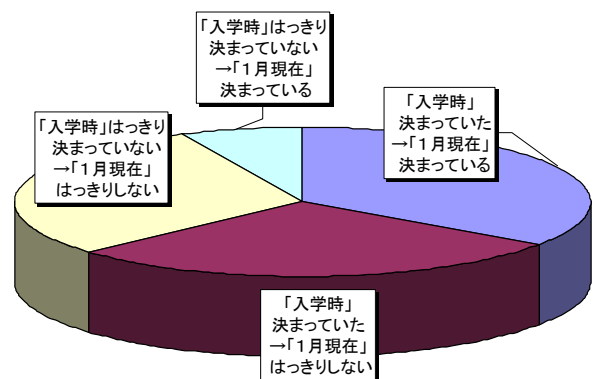
ここで私たちの相談室がおこなった、昨年の1年生に対する調査結果を紹介します(2005年1月、総合科目の受講生237名に実施)。いくつか質問項目はあるのですが、注目されるのは、大学で学びたい内容が入学時と現時点で決まっているかどうかという質問への

回答です(下図)。

入学時には決まっていた目標が「現在ははっきりしなくなっている」と29.1%の学生が回答しており、それに、入学時も現在も「はっきりしない」の29.5%を加えると6割弱の学生が1年終盤の時期を、学びたいことが不明瞭なまま過ごしていることとなります。それには、一般教育の授業の中で興味が広がったり、入学前に抱いていたイメージと現実の目標との間にギャップを感じたりなどの経緯が考えられるでしょう。また、学びたい内容は入学前から変化していなくても、具体的な興味やその関心のあり方がシフトしているかもしれません。以上のことをネガティブにとらえるよりは、大学には目標を再設定していくチャンスがあり、学ぶ内容を自分なりに決めなおしていくプロセスこそが大切、と考える方が多くの学生の現状に合っていると思われます。

では大学生としての期間をどのように使っていきたいでしょう。ある高名な精神療法家が“目標を設定すると体験が貧困化する”という趣旨のことを語っていますが、たしかに目標を堅く決めすぎてしまうと、大学生としての時間と空間はその目標を最短距離で実現するための手段となってしまいうでしょう。目標に肉付け(場合によっては再選択という修正)をしながら、より豊かにそのプロセスを過ごしていくことが大事であり、回り道を楽しめる力も必要なのかもしれません。

図：あなたが学びたい内容は、入学時に決まっていたか。現在(1年生1月の時点)はどうですか？



学生生活・修学相談室の案内

なんらかの悩みや修学・生活上の困難を感じたときには「学生生活・修学相談室」を訪れてみてください。対人関係や将来への不安、自分のあり方をはじめ、さまざまな相談内容について、臨床心理学を専門とするカウンセラー（常任相談員）3名が皆さんとの対話の時間をもてるようにしています。また、学部固有の学習方法や将来の進路等の相談は、必要に応じて学部・学府相談員の先生方を紹介することができます。相談

室の活動として個別の相談以外に、「1・2年生のためのグループ」と「大学での学び方についてのワークショップ」も行っています。

また相談室に併設されている、ブラウジング・ルーム（学生生活・修学情報室）には、各学部の研究紹介をはじめ、進路情報や卒論・修士題目、学部要覧や紀要など、さまざまな資料が揃っています。その他にも、資格や就職、一人暮らしの情報などもありますので、相談室とあわせてうまく利用してみてください。

（学生生活・修学相談室 カウンセラー）

— 相談したいときは —

「学生生活・修学相談室受付事務室」（六本松地区本館1階、3ページ参照）を直接訪ねるか、あるいは電話で相談の申し込みをしてください。

受付電話番号 726-4806（受付事務 畑山涼子）

受付時間 9:00~17:00（昼休み 12:00~13:00）

常任相談員の研究室（六本松地区本館1階）を直接訪ねてもかまいません。

常任相談員（カウンセラー）・電話番号

吉良安之 726-4804 田中健夫 726-4802 福留留美 726-4805

相談にあたるカウンセラーの教員（常任相談員）3名は臨床心理学の専門教員です。相談の秘密には十分な配慮をしています。また、修学上の相談で、各学部や学府の専門的内容の相談（履修の仕方、勉強の仕方、将来の進路など）については、必要に応じて各学部や学府の相談員の先生方を紹介します。

学生生活・修学相談室のホームページ

相談室のホームページを開設しています。常任相談員の教員がそれぞれの活動やメッセージを載せていますので、是非ごらんになってください。アドレス <http://cg.rc.kyushu-u.ac.jp>

各学部・学府の相談員の先生方

文学部	助教授	久保 智之	歯学部	教授	寺田 善博	芸術工学部	助教授	藤原 恵洋
教育学部	教授	針塚 進	歯学部	教授	二ノ宮裕三	農学部	教授	大坪 政美
法学部	教授	直江 眞一	薬学部	講師	西田 基宏	比較社会文化学府		
経済学部	教授	岡部 鐵男	工学部	教授	和田 清		教授	古谷 嘉章
理学部	助教授	清水 良文	工学部	教授	今任 稔彦	人間環境学府	助教授	高橋 靖恵
理学部	教授	横山 拓史	工学部	教授	島岡 隆行	数理学府	教授	小池 正夫
理学部	助教授	山内 敬明	工学部	助教授	深田 智	システム情報科学府		
理学部	教授	小池 正夫	工学部	助教授	和泉 直志		教授	安元 清俊
理学部	助教授	小早川義尚	芸術工学部	教授	土居 義岳	総合理工学府	教授	辻 正治
医学部	教授	吉田 眞一	芸術工学部	教授	坂田 年男	21世紀プログラム		
医学部	教授	加未 恒壽	芸術工学部	教授	坂本 博康		教授	副島 雄児
医学部	教授	松崎 彰信	芸術工学部	助教授	矢向 正人			

健康科学センター 六本松地区分室の案内

1. はじめに

健康科学センターは、箱崎・病院・六本松・大橋・筑紫の各キャンパスに分室があり、どこでも利用することができます。利用項目は高校の保健室と似ていますが、そこには、内科医・精神科医・カウンセラー・保健師・看護師が学生のみなさんの心身の健康を増進・保護するための必要な知識を提供したり心身の悩みの相談を受けたり応急処置等を行っています。ここでの相談は第三者に漏洩することはありませんので安心してご利用ください。特に新生は新しい環境に希望や期待に胸を躍らせている反面なにがしかの不安も多いことと思います。万一心身の不調に気づいた場合には、無理をせずに早めにご相談ください。

2. 利用案内

ここでは主に六本松キャンパスの健康相談室について案内します。六本松キャンパスの相談室は、“健康科学センター保健室”と書いていましたが、今年の1月に“健康科学センター六本松地区分室”通称“健康相談室”と名称が変わりました。利用項目は以前と変わりません。

利用時間

月曜日～金曜日

午前9時00分～午後5時00分

日常診察

内科医・精神科医による診察ならびに必要な薬が出されます。

ただし、医師の診察時間は曜日によって異なります。相談室の入口に表示していますので確認してください。

また、精神科医による診察をご希望の場合は予約が必要になりますので、前もって健康相談室に問い合わせてください。

医療機関の紹介

日常の診察で精密検査や専門的な治療を必要とする場合は、九大病院をはじめ近医を紹介しています。この場合は医療費がかかりますので健康保

険証が必要になります。家族と離れて生活する学生さんは“遠隔地保険証”を作っておいてください。

応急処置

学内でけがをしたとき等応急処置を行います。

健康チェック

身長・体重・体脂肪・握力・背筋力・血圧・視力など自己測定ができますので活用してください。

健康診断

毎年4月に定期健康診断を行うとともに要請によって運動部の健康診断を行います。

健康診断証明書の発行

定期健康診断を受けた人に対して、進学・就職・アルバイトなどで必要な診断書を自動発行しています。(一部、自動発行できない場合があります。その場合は健康相談室で発行しています。)

休養室

急に気分が悪くなった時は休養ができるようにベットがありますので利用ください。

3. 一人暮らしの方へ

家族と離れて一人暮らしを始める学生さんは以下のものを用意しましょう。

救急箱

体温計

解熱・鎮痛剤

かぜ薬

胃腸薬

消毒薬

包帯

カットバン

ガーゼ

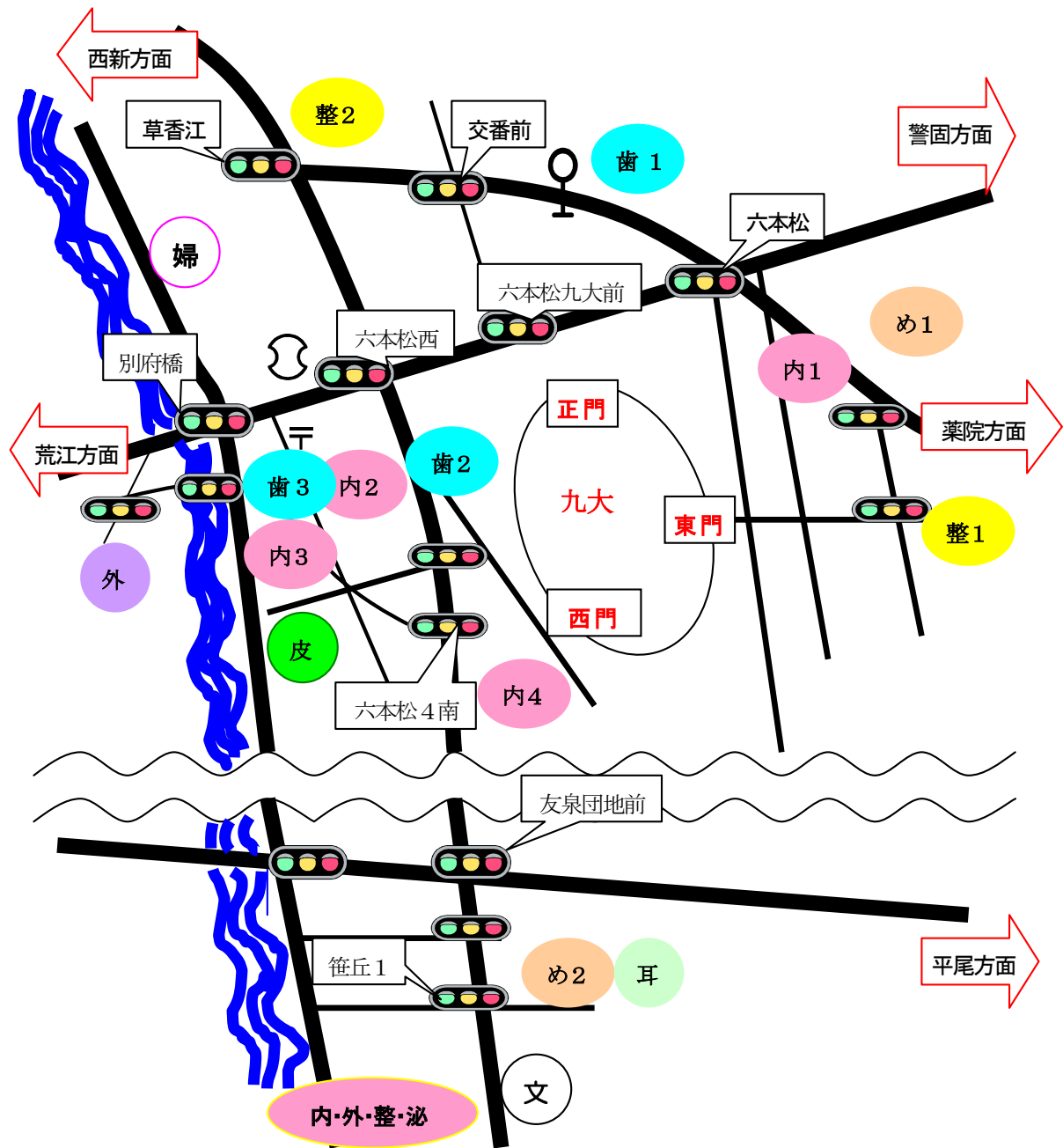
綿棒

遠隔地保険証

これは、健康保険証と同じ役割をします。手続きは“在籍証明書”を保護者に送って関係保険組合に申請してください。

病気や事故など不測の事態にそなえて、居住近くの病院(内科・外科)は必ず調べておきましょう。

六本松キャンパス近辺の医療機関案内図



内 1	大庭医院 (内科)	内 2	中垣クリニック (内科)	内 3	ししめ内科
内 4	かわなみ医院 (内科)	外	安藤病院 (外科・脳外科)	婦	東野産婦人科
め 1	梅野眼科医院	め 2	まえだ眼科	耳	よしかわ耳鼻咽喉科クリニック
整 1	広橋整形外科医院	整 2	戸次整形外科クリニック	内外整泌	博愛会病院
皮	いりき皮膚科医院	歯 1	ながた歯科クリニック	歯 2	前田歯科クリニック
歯 3	甲斐歯科クリニック	福岡県救急医療情報センター 471-0099 最寄りの病院を案内してくれます。			



radix No.41号 表紙・裏表紙のコメント

理学部2年 西尾 朋晃

薬学部2年 齋藤 順平

新一年生へ

美術部としては、絵の説明をするのは野暮なことですが、キチンとメッセージを受けとって欲しいので書くことにします。

この二枚の絵の主人公は藍色のジッパーです。でも、このジッパーはなぜかスニーカーになっています。

せっかく九大に入学したのに、途端にやる気をなくし、道を見失う人がたくさんいます。このジッパーは道を見失わぬよう地道な努力で未来を切り拓く自分の足を、チャックは目の前から伸びる進むべき道を表しています。

やるべき事をやらない内は、周囲は闇に覆われており、不安で辛い気持ちになります。けれど一歩前に踏み出せば、そこに一筋の光が指しこみ、進めば進むほど、清々しい朝の空気につつまれます。このことを忘れないで下さい。

この二枚の絵が皆さんの努力のわずかな支えになれば、と思い作りました。

あ と が き

もちろん自宅から大学に通う人も多いだろうが、はじめてのひとり暮らし（あるいは寮生活）という人も少なくないだろう。引越し荷物を家族や友達何人かで運び込んだ賑わしさや、宅配でやってくる家具やら取り付け工事やらをがらんとした部屋で待っていた所在なげな時間のことを、この季節になるとちょっと思い出す。おそらく4年後の3月には、増えているであろう荷物や家具、そしてどこか変化したあなた自身を見送って、また部屋はがらんとするのである。引越しというのは慌しいもので、感傷に浸る時間もあまりないのだが、その時、再びがらんとした部屋をつかの間眺めるあなたの視線が、充実感と感謝に満ちていることを心からお祈りします。がんばって。

(K.H.)

九大を使いこなそう..... 2	留学生芸術祭
六本松地区事務窓口案内..... 7	GLOB. ART. FESTIVAL太田 一彦...16
世界・日本 22	日本の精神・美徳?!.....小俵 京子...18
ケンブリッジ・ミュンヘンで	サークル紹介 34
外国語を学ぼう..... 8	山岳部一年生の思うこと.....千先 治樹...20
鈴木 右文・古川 雄基	九大美術部～表現したいあなたに～
津村 正樹・渡邊 智恵	森 奈美子・齋藤 順平...21
さあ英語だ！.....鈴木 右文...11	いちおし 共同合宿.....朱雀奈津子...22
ドイツ・インターンシップ研修体験記	不連続を愉しんで、大学の学びに適應する
櫻木 理・益野加奈子...12	長野 剛...24
JTWの授業を受講して見よう...竹山 真美...14	大学生生活の“目標を考える”こと...田中 健夫...26
海外派遣留学制度・他.....15	健康科学センター 六本松地区分室の案内.....28

在学生執筆者の学年の表示は2005年4月1日現在です。

投稿・写真歓迎

編集委員会ではradixへの投稿、紙面を飾る写真を募集しています。あなたが関わっている様々な活動、六本松地区や「全学教育」にまつわる出来事、六本松の思い出など、六本松や「全学教育」に関するものであれば何でも結構です。

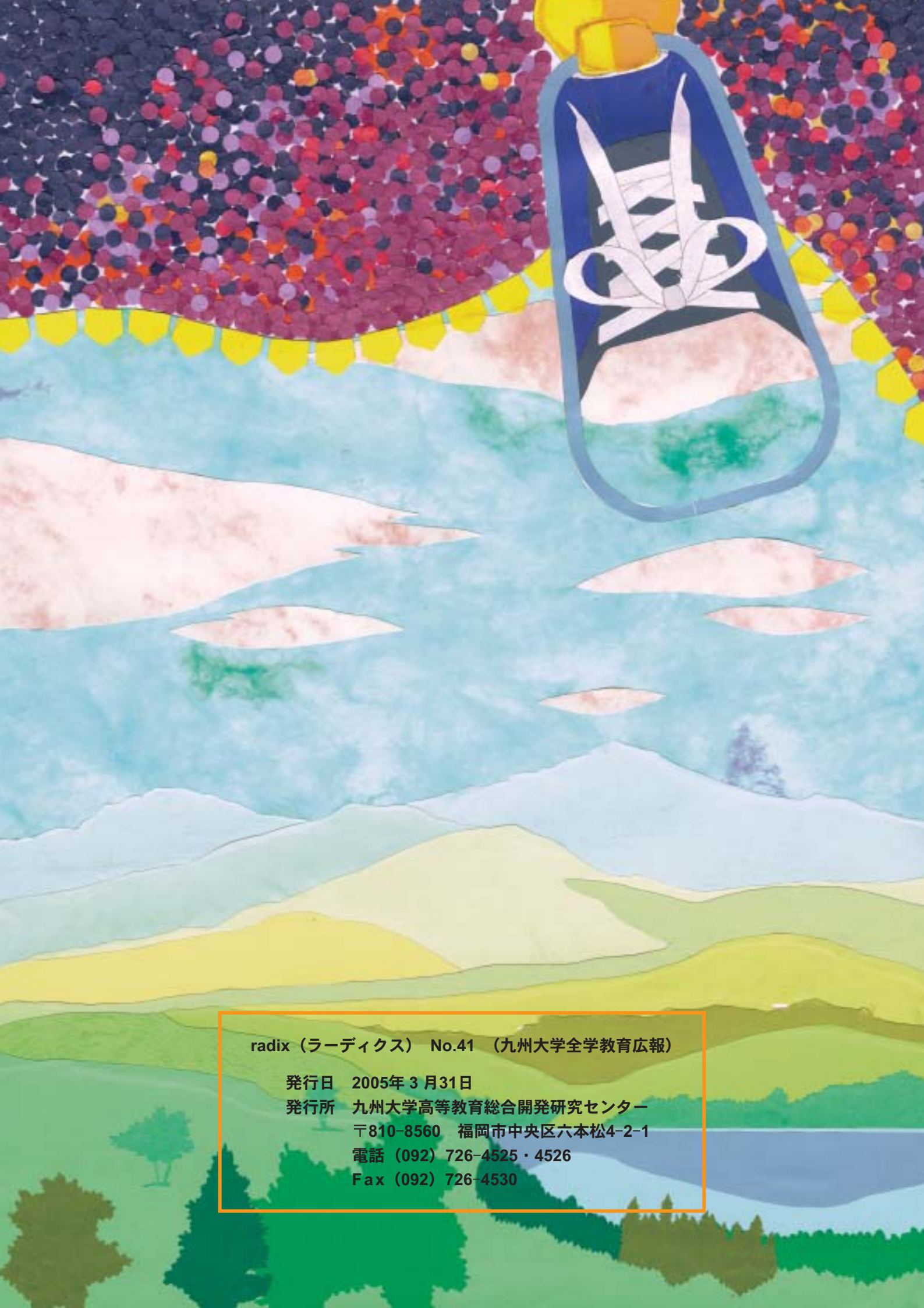
表紙写真も、キャンパスでのもの、旅先でのものをはじめ、あなたの作品、ぜひ紹介したい知り合いの作品など、広く募集しています。応募、推薦の対象は六本松や「全学教育」に関わりのある全ての方です。

radix 学生モニター募集

編集委員会ではradixに対する学生の意見・要望を聞くためにモニターを募集しています。また学生編集委員も募集しています。募集は常時行っています。

投稿、写真、学生モニター・編集委員の応募は下記で受け付けます。

編集委員 A.カスヤン(言 文 ☎726-4666)	鍋木 政彦(比 文 ☎726-4632)	川口 栄男(農 学 ☎642-2892)
(04年度) 小山 紘三(高研セ ☎726-4585)	是松 正俊(事務室 ☎726-4504)	田中 健夫(高研セ ☎726-4802)
中野 武彦(医 学 ☎642-6697)	西野 常夫(比 文 ☎726-4600)	橋彌 和秀(人 環 ☎642-3143)
丸山 徹(健 セ ☎583-7863)	矢向 正人(芸 工 ☎553-4549)	
高等教育企画係(事務室 ☎726-4525・4526)		



radix (ラーディクス) No.41 (九州大学全学教育広報)

発行日 2005年3月31日

発行所 九州大学高等教育総合開発研究センター
〒810-8560 福岡市中央区六本松4-2-1

電話 (092) 726-4525・4526

Fax (092) 726-4530